

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：22702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10473

研究課題名(和文) 無痛分娩に求められる助産ケアの探究：安全性の担保と安心感の提供を目指して

研究課題名(英文) Exploration of midwifery care in painless childbirth: Toward assuring safety and providing a sense of security.

研究代表者

田邊 けい子 (Tanabe-Nishino, Keiko)

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：00453506

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「無痛分娩に求められる助産ケア」を助産学の視点で探求し、「安全性の担保と安心感の提供に寄与する助産師の役割」を検討することによって、無痛分娩における助産ケアの質の向上を図ることを目指した。無痛分娩の助産ケアに携わっている臨床助産師への聞き取り調査を始め、チームを組む産科医、麻酔科医、そしてケアの受け手としての女性たちへの聞き取りによって、具体的な助産ケアの中身を確認することが出来た。ただし、それはいずれもエビデンスレベルは低く一般化できないものであった。とはいえ、ここに助産ケアの拡がりを見ることも可能である。今回明らかになった一つ一つのケアの科学的な根拠を確認することが課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

別項に記載の通り、書籍(単著)、論文、対談、連載記事、学会発表(一般演題、教育講演、ワークショップ)、各種研修会講師など、研究成果を公表するに多彩な機会を得た。おもな読み手や聞き手はその機会のたびに異なり、助産師だけでなく、協働する産科医や麻酔科医に対しても、そして一般の人々に対しても「無痛分娩における助産とは何か」、さらにはそもそも「助産とは」「助産師とは」という根本的な問いを共有することが出来た。無痛分娩を選好する女性たちがあまねく助産ケアを受けられるような社会への足がかりの一つとなれば幸いである。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to improve the quality of midwifery care in painless childbirth by exploring "midwifery care required for painless childbirth" from the perspective of midwifery science and examining "the role of midwives in assuring safety and providing a sense of security". We were able to confirm the specifics of midwifery care through interviews with clinical midwives involved in midwifery care for pain-free delivery, obstetricians and anesthesiologists who work as a team, and women who are the recipients of care. However, the level of evidence was low and not generalizable. Nevertheless, it is possible to see the expansion of midwifery care here. The challenge is to confirm the scientific basis for each of the care identified in this study.

研究分野：助産学、看護学、医療人類学

キーワード：無痛分娩 硬膜外麻酔 硬膜外無痛分娩 産科麻酔 助産 助産技術・助産技術 助産師 ケア

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 急務としての安全確保：だが助産学の視点や経験(知)に基づく研究は不十分

無痛分娩をめぐるのは、2017年に入り、妊産婦死亡を含めた重大事故が相次いで表面化するなど、安全の確保と対策は急務と考えられていた。実施割合の急上昇(2007年2.6% 2016年5.2%)にみられるようなニーズの高まりを背景に、産科医や麻酔科医らからなる厚生科学研究班は2017年度末をめどに、安全に関する提言をまとめる方針を打ち出していた。

一方、無痛分娩の助産ケアに目を転じると、研究自体がきわめて少なく、しかもその内容は産科学や麻酔科学の視点で観察やケアのポイントを述べるにとどまり、助産ケアにも関わらず、助産学独自の視点や経験(知)が十分に蓄積/活用されているとは言えない状況にあった。

### (2) 医療連携・協働が不可欠：だが助産師の存在が希薄な無痛分娩

無痛分娩は、産科医、麻酔科医、助産師といった専門領域の異なる医療者たちの協働と連携が不可欠である。しかし、安全対策に本腰を入れ始めた医師集団がある一方で、助産師についてみれば、日本助産師会安全対策委員会でも「無痛分娩の安全対策は議題に上がったことはない(H29年9月：研究代表者調べ)」というように積極的な関与はしていなかった。

しかし、助産師に課せられた命題は「母子の安全」である。そしてこれはどのような分娩様式であっても変わらない。さらに研究代表者の研究(田辺2008)によれば、医師集団が牽引するような、単に安全性だけを重要視する出産像は、女性たちが期待している理想の出産像とはかけ離れた像であることが確認されている。このように、助産師には、助産師が参与するからこそ可能な「安全と安心、両輪のバランスが取れた支援(田辺2017)」が期待されている。

### (3) 閉ざされた「知」：限定的な助産師集団のみに共有される助産ケア

ところで、研究の開始当時、無痛分娩を実施する医療施設は偏在しており、無痛分娩の助産ケアに当たった経験のある助産師は全体のほんの一部に過ぎなかった。

つまり、無痛分娩のケアに関する助産師の「知」は一部の医療施設内、あるいはまた、一部の助産師たちにのみ共有された、いわば「閉ざされた<知>」であったのである。

今後増加しうる無痛分娩に対応できない状況にあるとさえいえた。

### (4) 安全と安心を保障する存在としての助産師：周産期医療に対する不信感の払拭のために

周産期医療に対する社会的な不信感が募るなか、助産師が関与するからこそ安全で安心な無痛分娩は可能となることを社会的にアピールし、これを払拭する必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

### (1) 「無痛分娩に求められる助産ケア」を助産学の視点で探求すること

### (2) 「安全性の担保と安心感の提供に寄与する助産師の役割」を検討すること

### (3) 上記2項目を達成することによって無痛分娩における助産ケアの質の向上を図ること

## 3. 研究の方法

### (1) 文献検討

### (2) 聞き取り調査に基づく質的記述的研究

「無痛分娩において求められる助産ケアと助産師の役割」を、当事者(無痛分娩に携わる助産師・産科医・麻酔科医、ケアを受けた女性たち)への聞き取り調査に基づく質的記述的研究を採用した。

### (3) 「無痛分娩の看護マニュアル」に関する調査

この調査は当初の研究計画にはなかった。しかし次の理由により計画を追加し実行した。2018年3月29日の「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」を受けて厚労省は同年4月、「無痛分娩取扱施設のための自主点検表」を作成し、診療体制、情報公開、有害事象の収集・分析・共有について適切な対策を講じるよう求めた。看護師/助産師にかかわる部分では、「無痛分娩の看護マニュアルの作成」が求められていた。そこで、同マニュアルの実態を把握するために、全国の無痛分娩取扱施設から資料を提供してもらい、これを分析した。

具体的な方法は、厚生労働省および日本産科麻酔学会(JSOAP)のホームページに掲載されている「無痛分娩取扱施設448件(2018年8月1日時点：厚労省)」と「無痛分娩施行施設160件(2018年6月20日時点：JSOAP)」の和608から、重複123件を除いた485医療施設に対して、文書を用いて「無痛分娩の看護マニュアル」の提供を依頼した。依頼にあたり、マニュアルを提供できない場合にその理由を記載するための返信用はがきを同封した。調査期間は2018年8月末から12月上旬である。

## 4. 研究成果

方法(1)(2)により得られた成果について

研究成果は「5.主な発表論文等」に記載の通り、書籍(単著)論文、対談、連載記事、学会発表(一般演題、教育講演、ワークショップ)各種研修会講師など、実に多彩で多くの機会を得た。おもな読み手や聞き手はその機会のたびに異なり、助産師だけでなく、協働する産科医や麻酔科医に対しても、そして一般の人々に対しても「無痛分娩における助産とは何か」、さらにはそもそも「助産とは」「助産師とは」という根本的な問いを共有することが出来たのではない。

とはいえ、「無痛分娩の助産ケア」をめぐる状況は、調査を開始した2018年当時に比しても、助産師集団全体に認知されているとは言えない状況が続いており、新たに無痛分娩を取り扱い始めた医療施設に勤務する助産師にとっては、いまだ、閉ざされた「知」に変わりはないことが調査により明らかになった。

2022年4月27日に公表された「2020年度医療施設(静態)調査の結果」によれば、2020年9月の1ヶ月間に実施された無痛分娩は505施設(全分娩取扱施設の26%)で、その実施率は全分娩の8.6%であった。2017年の日本産婦人科医会調査では2016年の実施率6.1%に照らせば、日本における無痛分娩の実施率は増加傾向にあるといえる。

無痛分娩を選好する女性たちがあまねく助産ケアを受けられるような社会への足がかりの一つとなれば幸いである。

方法(3)により得られた成果について

返信は全体の25.2%にあたる122施設から寄せられた。そのうち、看護マニュアルが送付されたのは74施設(全体の6.6%)であった。提供しない/できないと回答した46施設(全体の10.5%)のそれぞれ理由は、「明文化されたマニュアルがない」が26施設、「提供の許可が下りなかった」が9施設、「見直し/改訂中のため」5施設、「新規作成中のため」4施設、「その他」2施設であった。

マニュアルに記載されていた内容は、麻酔の管理(Bromage scaleやコールドテスト、痛みの主観的評価:NRSやVAS、輸液の管理、飲食に関すること、麻酔に必要な器具器械類の説明、とりわけ局所麻酔薬やオピオイドの副作用と緊急時の対応に紙幅が割かれていた)と、麻酔下にある分娩の管理(胎児心拍数陣痛図(CTG:Cardiotocogram)の異常、器械分娩に関すること、導尿、精神的援助)などであった。ただし、麻酔下の分娩に起こりがちな、胎児の不正軸侵入や回旋異常、分娩の遷延などに対する助産ケアに関する記載は量的質的ともきわめて乏しい状況であった。

なお、電話やメール、返信用ハガキなどを用いて「作成/改訂をしているので助言が欲しい、いま集まってきているマニュアルを見せて欲しい」という内容の依頼が9件寄せられた。

本報告書は最終集計をもとに記している。したがって、中間報告として発表\*した内容とは異なる。( \* 第33回日本助産学会学術集会)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 田辺けい子, 水尾智佐子	4. 巻 74(6)
2. 論文標題 特集1 「助産」とは何か 改めてその専門性を問う [対談(1)] 無痛分娩を通して助産を問う	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 402-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 田辺けい子	4. 巻 39(3)
2. 論文標題 Perinatal Staff にお届けする学会・研究会REPORT 第123回日本産科麻酔学会学術集会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 水尾智佐子, 田辺けい子	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 日本における無痛分娩の助産ケアの概念分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 408-418
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 田辺けい子	4. 巻 40(10)
2. 論文標題 「麻酔下の分娩: 助産診断の面白さ」 : 助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない! 無痛分娩に求められる助産技術【連載第1回】	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 76-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 40 (11)
2. 論文標題 「分娩経過の把握と予測」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第2回】	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 78-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 41 (1)
2. 論文標題 「麻酔の導入時期を見極めるための助産 (前編)」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第3回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 84-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平、横田朋	4. 巻 41 (2)
2. 論文標題 「麻酔の導入時期を見極めるための助産 (後編)」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第4回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 90-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平、横田朋	4. 巻 41 (4)
2. 論文標題 「分娩に麻酔が加わることと助産」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第5回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 70-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 41(6)
2. 論文標題 「麻酔下の分娩を遅延させないための助産（娩出力へのアプローチ）」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第6回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 602-608
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 41(7)
2. 論文標題 「麻酔下の分娩を遅延させないための助産（娩出物と産道へのアプローチ）」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第7回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 「努責の誘導と分娩介助手技の工夫（前編）」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第8回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 「努責の誘導と分娩介助手技の工夫（後編）」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第9回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 「分娩第3期から早期産褥期（初回歩行まで）の助産」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第10回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 「助産診断に活かす麻酔の知識」：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第11回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田辺けい子、野口翔平	4. 巻 -
2. 論文標題 安全で快適な麻酔下の分娩のためのチーム医療/連携：助産師の腕が試されるとき / 麻酔管理だけじゃない！無痛分娩に求められる助産技術【連載第12回】	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ペリネイタルケア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤三恵子，吉田安子，田辺けい子
2. 発表標題 無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）に助産師が介在する意義
3. 学会等名 第61回日本母性衛生学会総会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田辺けい子
2. 発表標題 「無痛分娩の看護マニュアル」実態報告 ～全国調査の中間報告～
3. 学会等名 第33回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田辺けい子
2. 発表標題 【講演】無痛分娩に助産師はどう係わるべきか
3. 学会等名 第4回神奈川無痛分娩研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田辺けい子
2. 発表標題 【教育講演】無痛分娩の上手な助産管理
3. 学会等名 第1回日本周産期麻酔科学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 牧野真太郎、瀧田寛子、野口翔平、田辺けい子
2. 発表標題 【ワークショップ】「硬膜外無痛分娩の産科管理-最適化を目指して多職種が語り合う」
3. 学会等名 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年



〔図書〕 計1件

1. 著者名 田辺 けい子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 64
3. 書名 無痛分娩と日本人 : Painless childbirth	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------